

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）						対象年度		令和5年度		
事業番号	60	事業名	新規就農支援事業 (大事業名) 新規就農総合支援事業			担当課		みどりの推進課		
						予算区分（款-項-目-中事業）		5-1-3-1 新規就農支援事業		
						決算書ページ		165 ~ 一般		
I 基本情報	総合計画	基本目標	3	みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物		事業開始の背景	地域農業の担い手を育成するために、就農段階から農業経営の改善・発展段階まで一貫した支援が必要ということから、国が平成26年度から認定新規就農者制度を農業経営基盤強化促進法に位置づけ、市が青年等就農計画を認定し、新規就農者へ支援を行うこととなった。			
		政策	2	農あるくらしの推進						
		施策	(2)	農の多様な担い手の育成						
	その他	開始年度	H26							
		終了予定年度	☐ 年度	☒ 未定						
		根拠法令等	農業人材力強化総合支援事業実施要綱（国）、長久手市農業次世代人材投資事業補助金							
		関連計画	なし							
	アウトプット（詳細はⅡへ）						アウトカム（詳細はⅢへ）			
	事業の概要・目的	①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)		
		【対象】 ☐ 市民 ☐ 事業者 ☐ 職員 ☒ その他 対象の数： 不明 【事業内容】 農あるくらしの推進のため、 新規就農者の確保、育成に取 り組む。		【アクションプラン指標】 認定新規就農者数（青年等就 農計画認定者）【累計】 農地の貸し手と借り手の マッチング件数【単年】 【その他の指標】 農地マッチング支援事業 貸し手の農地の登録数【累 計】		次世代を担う農業者となるこ とを志向する者に対し、就農 前の研修を後押しする資金や 就農直後の支援をすることで 経営を確立できる。 (成果指標名) 新規就農者（青年等就農計画 認定者）数		大 事 業 共 通 農の多様な担い手が育成さ れ、市内の農業が活性化し、 遊休農地の減少につながる。 あぐりん村に出荷する生産者 が増加し、生産者同士や市民 と交流することで、地域の活 性化につながる。		

II 活動状況（アウトプットの詳細）	活動指標	活動指標名		単位	基準値（2018年） 目標値（2023年） ※AP指標のみ		区分	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度		
		1	【アクションプラン事業】	人	基準値	0	見込	8	9	10	11	12		
			認定新規就農者数（青年等就農計画認定者） 【累計】		目標値	5	実績	8						
		2	【アクションプラン事業】	組	基準値	0	見込	5	5	5	5	5		
			農地の貸し手と借り手のマッチング件数【単年】		目標値	5	実績	5						
		3	【その他指標】	筆	基準値	0	見込	50	75	100	125	150		
			農地マッチング支援事業 貸し手の農地の登録数【累計】		目標値	50	実績							
		4			基準値		見込							
					目標値		実績							
		エピソード	事業開始からの経緯											
			平成26年度から市が青年等就農計画を認定し、新規就農者へ支援を行うこととなり、次世代を担う農業者となることを志向するものに対し、資金を交付し、就農前の研修段階及び就農直後の経営確立を目指している。 また、次世代を担う農業者を確保するため、農地マッチング支援事業を行っており、貸し手農地の情報を公開している。 令和5年度よりアグリサポート事業を開始し、さらなる支援の充実を目指す。											
			R5(2023)年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
あぐりん村及びあいち尾東農協に農地マッチング支援事業のチラシ等を設置し、周知を行った。 マッチングが5件成立し、利用権の設定を行った。 アグリサポート事業のうち、農機具等貸出事業及び営農相談事業を開始し、周知を行った。														

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標										
		新規就農者（青年等就農計画認定者）数	人	H26 年度		H31 年度		【現状】 R5 年度		R8 年度		R11 年度		
				1		6		7		11		14		
		成果達成状況					指標目標値の根拠							
		C	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている					毎年1人新規就農者を確保する目標のため。						
	評価の理由、分析													
	新たに農業を始めた若者に対し、補助金を交付することで、営農が軌道に乗るまでのバックアップをすることができた。													
	加える変化（ACTION）	今後の方向性（3年～5年先）		今後の方向性の理由										
		A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止		国の事業であるため、制度に関して市の裁量はないが、事業を活用してもらうための広報活動は実施する必要がある。									
		改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)												
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度			
1			☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止											

IV 費用	令和7年度予算の方向性（PLAN）	R7年度の費用（R6年度比）		3 年間の推移	(単位：千円)	R6(2024)年度	R5(2023)年度		R4(2022)年度		
		A	A. 現状維持 B. 拡充		事業費	予算	予算	決算	予算	決算	
			C. 縮小 D. 廃止			3,750	3,000	2,250	3,000	3,000	
		理由			特定財源	合計額					
		国の制度であるため、改正が無い限り現状維持となる。	(内 国費)			3,000	3,000	2,250	3,000	3,000	
			(内 県費)								
			(内 諸収入)			750					
			(内 その他)								
		積算額			一般財源		0	0	0	0	0
		1,500千円・年×交付対象者2人			R6年度予算の内訳 ＜細々節名、 予算額、（R5年度予算額）＞ 農業次世代人材投資事業補助金 3,000千円（3,000千円） 返還金 750千円（0千円）						